



渡部製鋼所本社工場の増強後の完成イメージ

渡部製鋼所（島根県出雲市、古田稔社長）は、鑄物の生産能力を2025年度（25年12月期）に従来比2・5倍の2万トンに増強する。親会社のDMG森精機が工作機械用鑄物製品の国内調達を強化するのに対応。約56億円かけて本社工場と斐川工場（島根県出雲市）、木次工場（同雲南市）の設備を増強中で、23年1月に本格稼働する。これにより25年度の売上高で22年度見込み比2倍の80億円を目指す。

渡部製鋼所 鑄物生産能力2.5倍に増強

DMG森精機の調達即応

設備計画に対し渡部製鋼所は島根県、出雲市、雲南市と立地に関する覚書を結んだ。県や市は計約4億9000万円を助成する。本社工場では約2600平方メートルの敷地を新たに取得し東棟と北棟を建設。溶解後の造型や後処理などを整備した東棟は22年5月に稼働し、北棟は現在3基の電気炉を設営中だ。斐川工場は倉庫から製品の見終仕上げ・検査用に転用する。木次工場では約8600平方メートルを新たに取得し、1月から粉碎・破砕機を生産に代えて新たに立型マシニングセンター（MC）の組み立てを開始しており、25年度に500台を目指す。これらに伴い、今後3年間に全社で44人を新たに雇用する。

渡部製鋼所はDMG森精機の連結子会社で、同社の工作機械用鑄物製品を主力に機械加工などを手がける。（松江）